

表4-4 食物形態・食べ方・食べさせ方の進め方と食器具の使い方

時 期 月 齢 項 目	離乳準備期	初めごろ		中ごろ			終わりごろ			18
	3～4	5	6	7	8	9	10	11	12	
食物形態の特徴	液体	半流動食→すりつぶし食 ・粒のないなめらかなものの (ボタージュ状→ジャム状) (ドロドロ ベタベタ)	押しつぶし食→粘稠軟固体食 ・舌で押しつぶせる程度の軟らかさ、大きさ、粘稠性(とろみ) ・スプーンの背で簡単につぶれる固さ(みじん切り調理にしない) ・押しつぶし食に少しづつ形のあるものを加えていく	軟固体食 ・歯ぐきでつぶせる程度の軟かさ、大きさ、形、とろみ少々 ・形のあるものに少しづつ固さを加えていく ・指で押しつぶせる固さの軟か煮 ・メニューの中に手でつまんで食べるものを入れる						一口切り食 ・前歯で噛み切れる固さ、大きさ、形 ・乳歯で噛みつぶせる固さのもの ・メニューの中に手で持ち、噛み切って食べるものを入れる ・スプーンでくいやすい調理形態(形、大きさ、濃度)にする
歯の萌出		下2 (門歯)		上2下2 (イ)			上4下4 (イ)			上6下6 (門歯+第一乳臼歯) (イ+犬歯)
食べ方		・口唇を閉じて舌を前後に動かし、のみこむ	・口唇で食べものをとりこみ、舌、あごの上下運動でモグモグ押しつぶしてのみこむ	・口唇を閉じて舌で食べものを左右に移動し、奥の歯ぐきでつぶして上下唇閉じて、口角をねじりながら食べる ・形のある大きなものを手のひらで握り、一口ずつ食べる 押しこまないようにする						・そしゃく運動の練習期 ・舌、あごが自由に動くようになる ・前歯で噛み切る ・奥歯が生えてくると、噛んですりつぶし、だ液と混せて食べるようになる ・自食が始まる
食べさせ方	◎抱かれてのむ ◎立て抱きにする (横抱きにすると吐) (乳しやすくなる) ◎スプーンになれる ・下唇にのせたまま口の中には入れない 斜めに傾けない ・スプーンを横にして上唇にスプーンのふちが添うようにする ・舌の中央へ食べものをのせたり上あごになすったりしない ◎のみこめる軟らかさにスープでのばしながら与える	◎抱かれて食べる ・のみこみやすい角度の立て抱きにする ◎スプーンですすめる ・口を開くまで無理に入れない ・食べものをスプーンの先の方にこんもりとのせる ・一口量に気をつける ・子どもの舌が出た時に床に平行に運ぶ ・下唇の上にスプーンをのせ、パクパクしながら口にとりこむ(入れる)のを待つ ・のみこめる軟らかさにスープでのばしながら与える	・下唇の上にスプーンをのせ上唇でとりこませる ・押しつぶしてのみこむリズムをつくる 一口量・つぶし方・大きさ・とろみの濃度など子どもの舌の動きを見ながら与える ・指を口に入れる時は固さ、大きさに問題あり ・コップ、茶わんに両手を添えるように誘導しながら口にとりこむ(入れる)のを促す	・軟かく煮たものを1～1.5cm角位に切り分けながら与える 子どもによっては角をつぶす ・つまめるものはつまんで口に運ぶように促す (大人の持つスプーンに手を添えたり) (指さし要求がみられる)	・哺乳瓶からコップへ 指を伸ばし、手のひらで持てのむよう促す				・自分の椅子に座って食べる姿勢に気をつける(テーブル、椅子の高さ) ・少し固さのあるものを一口量ずつつかみとらせる 口唇を閉じ、よく噛んでのみこむよう促す ・手づかみ食べて手が口の中へ入らなくなったらスプーンを持たせる ・一つの食器から、食べやすいものから自分で食べ始める(食べにくいものを介助する) ・スプーンの握り方、運び方 スプーンにのせる一口量と食べ方に気を配る (一口量が多すぎると丸のみの食べ方) になるので注意する。	
食器具	乳首(固さ、形、孔の大きさ) スプーンの大きさ(口の大きさに) (孔の大きさ)(合わせる) 口角の1/2～2/3 先が細くなっているもの スープ 果汁 深さのあるもの(実なしスープ)	→(上唇でなめるように) (平らなものがよい) ウイスキー グラス or バイレックス バイレックス or 陶器コップ 主食+副食	バイレックス or 陶器コップ 平らなもの(固体食用) 深さのあるもの(実なしスープ)	陶器コップ パン皿 子ども用	大人用				パンの時 子犬も用 ご飯の時	